

生産出荷近代化計画の概要

- 〔野菜指定産地〕 周智
- 〔指定野菜の種別〕 冬レタス
- 〔区 域〕 袋井市、磐田市、周智郡森町
- 〔指定年月日〕 昭和44年8月6日
- 〔計画樹立年月日〕 平成26年3月18日
- 〔変更後の概要〕

【産地の概要】

平成24年現在、作付面積136ha、生産数量3,727t（10a当たり2,740kg）であり、関東市場に出荷している。

当産地での冬レタスは暗渠排水の整備された水田の裏作として栽培されている。

【現状と課題】

レタス包装機を導入し、出荷作業の省力化が実現されているが、担い手の高齢化により生産量は減少傾向である。

【今後の対応策】

現状の生産規模を維持拡大するため以下の点について重点的に取組み、担い手の確保、効率的な生産出荷体制の整備を図る。

- ① 担い手への集積を進め、利用権設定等の促進により面積の維持拡大を図る。
- ② 移植機など省力化機器の導入や効率的施肥、反当り収量の改善など低コスト省力生産体系の確立。
- ③ 土作りセンター堆肥を活用し活力ある土壌づくりを行う。
- ④ 調製・出荷の委託化等を検討し、出荷作業の軽減を目指す。

生産出荷近代化計画の概要

- 〔 野菜指定産地 〕 三島
- 〔 指定野菜の種別 〕 冬レタス
- 〔 区 域 〕 三島市、函南町
- 〔 指定年月日 〕 平成24年5月7日
- 〔 計画樹立年月日 〕 平成27年2月17日
- 〔 変更後の概要 〕

【産地の概要】

平成24年現在、作付面積25.9ha、生産数量1,189tであり、関東市場に出荷している。

当地の冬レタスは市場や顧客からの評価が高く、生産・出荷は体系化されており、JA共販を基軸とする販売流通が確立されている。

【現状と課題】

作付面積と生産数量は年々微増する傾向にある。現存の生産者は比較的若い年齢層が多い。今後は、農地の集積により生産面積の確保と効率的な土地利用を進めるとともに、高い生産技術による生産物の高品質化と生産数量の増加、販売面では契約比率の増加により産地の優位性を維持することが課題となっている。

【今後の対応策】

現状の生産規模を維持拡大するため以下の点について重点的に取組み、担い手の確保、効率的な生産出荷体制の整備を図る。

- ① 土壌診断結果に基づく適正な施肥と有機物の施用及び緑肥作物を導入した土づくりを推進する。
- ② 近年の気象変動に対応するため、被覆資材の利用や耐暑性品種の導入を図る。
- ③ 部会単位で後継者の育成に努め雇用の安定化に努めるとともに、作業の省力化を進め、生産の安定化を図る。
- ④ 契約販売比率をより高くし、収入の安定化を図る。

生産出荷近代化計画の概要

- 〔野菜指定産地〕 小笠
〔指定野菜の種別〕 夏秋トマト
〔区 域〕 掛川市、御前崎市（旧浜岡町）、菊川市
〔指定年月日〕 平成24年5月7日
〔計画樹立年月日〕 平成27年3月9日
〔変更後の概要〕

【産地の概要】

平成24年現在、作付面積15ha、生産数量783tであり、関東、東海市場に出荷している。

遠州灘に面した海岸砂地地帯である当地は、いちご、トマト、メロン等の施設園芸やにんじん、さといも等の露地野菜栽培も盛んである。

【現状と課題】

隔離床栽培の導入等により効率的な生産や環境にやさしい農業の展開に努め、機械選別機能を持つ集出荷施設を整備するなど、指定産地としてのブランド化と生産性の向上を進めてきたが、担い手の高齢化により生産量は減少傾向である。

【今後の対応策】

現状の生産規模を維持拡大するため以下の点について重点的に取組み、担い手の確保、効率的な生産出荷体制の整備を図る。

- ① 集出荷場の機能を活かした省力化の推進等により面積維持を図る。
- ② 隔離床栽培の推進などで作業の効率化や快適化につながる生産体系の確立を図る。
- ③ トマト黄化葉巻病の総合防除対策を徹底し、生産の安定を図る。
- ④ 機械選果、非破壊内部品質検査、トレーサビリティ機能を持つ集出荷施設を活用し、効率的な流通体系の確立を図る。

生産出荷近代化計画の概要

- 〔 野菜指定産地 〕 三島
- 〔 指定野菜の種別 〕 冬春トマト
- 〔 区 域 〕 三島市、伊豆の国市、函南町
- 〔 指定年月日 〕 昭和47年6月28日
- 〔 計画樹立年月日 〕 平成28年1月20日
- 〔 変更後の概要 〕

【産地の概要】

平成25年現在、作付面積26ha、生産数量2,559t（10a当たり9,842kg）である。作付面積と生産数量は増加、単位当たり生産数量は微減の状況にある。

【現状と課題】

当区域は、箱根西麓の露地野菜や、田方平野のイチゴやトマトなどの施設園芸を中心に経営が行われている。当該地域は、近年混住化が進み、しかも生産者の高齢化や担い手の減少とあいまって、栽培面積の減少という問題が生じているが、この傾向は今後も続くものと考えられる。

【今後の対応策】

現状の生産規模を維持拡大するため以下の点について重点的に取り組み、担い手の確保、効率的な生産出荷体制の整備を図る。

- ① 利用権設定等の促進により規模拡大を促進し、産地の面積維持を図る。
- ② 生産性の向上を図るため、マルハナバチ等の導入を推進して交配作業の省力化に努める。
- ③ 土壌伝染病害虫対策として、農薬による環境汚染防止と省力化に有効な熱水土壌消毒機を導入することにより生産の安定を図る。
- ④ 「少量培地栽培Dトレイ」等の導入を検討するとともに、土耕栽培においては、栽培管理の中で、灌水や追肥作業の省力化、環境負荷軽減のため、養液土耕栽培システムの導入を検討し省力化を図る。

生産出荷近代化計画の概要

- 〔 野菜指定産地 〕 三島
- 〔 指定野菜の種別 〕 ばれいしょ
- 〔 区 域 〕 三島市
- 〔 指定年月日 〕 昭和 49 年 12 月 19 日
- 〔 計画樹立年月日 〕 平成 28 年 1 月 20 日
- 〔 変更後の概要 〕

【産地の概要】

平成 25 年現在、作付面積 15ha、生産量 448 t（10a あたり 2,987kg）である。作付面積と生産数量は平成 24 年ごろから徐々にではあるが回復しつつある。

指定産地として 40 年の歴史があり近畿・京浜市場等へ出荷され、三島馬鈴薯として好評を博している。

【現状と課題】

市場からは、適期収穫の励行や選別の強化による一層の品質向上と出荷量の確保が、一方生産面からは、植え付け・掘り取り・貯蔵・選別等の労働強度の軽減、省力化が求められている。

特に掘り取りから選別出荷に至る作業は高温期の過重な労働となるため、選別施設の導入による省力化を図り、出荷の平準化や市場及び消費地からの要求必要量に見合う出荷を行うことが求められている。

【今後の対応策】

現状の生産規模を維持拡大するため以下の点について重点的に取組み、担い手の確保、効率的な生産出荷体制の整備を図る。

- ① 選別施設からの情報をもとに個人別等階級の発生率などのデータを品質向上対策や技術支援などの栽培支援に活用し、秀品率の向上を目指す。
- ② 生産から出荷までの一貫した作業体系の見直しを行い、貯蔵・選別・出荷作業の分業化により省力化を推進する。
- ③ 疫病・アブラムシ等病虫害の徹底防除による秀品率の向上及び作柄の安定化を図る。

生産出荷近代化計画の概要

- 〔 野菜指定産地 〕 三保
- 〔 指定野菜の種別 〕 夏秋トマト
- 〔 区 域 〕 静岡市（旧蒲原町、旧由比町の区域を除く）
- 〔 指定年月日 〕 昭和42年8月19日
- 〔 計画樹立年月日 〕 平成28年1月20日
- 〔 変更後の概要 〕

【産地の概要】

平成25年現在、作付面積14ha、生産数量466t（10a当たり3,329kg）である。作付面積、生産数量、単位数とも横ばいの状況にある。農協、経済連を通じて関東市場に生食用として出荷している。

【現状と課題】

当産地は、駿河湾の海岸地帯に沿った砂地地帯に形成され、指定野菜を主とする施設園芸を中心に経営が行われている。元々、住宅地に隣接しているため、宅地化による農地の減少という問題が生じていたが、この傾向は今後も続くものと考えられる。

【今後の対応策】

現状の生産規模を維持拡大するため以下の点について重点的に取り組み、担い手の確保、効率的な生産出荷体制の整備を図る。

- ① 作付面積の維持に向けて、利用権設定等により担い手の作付増加を図る。
- ② 農業近代化資金等を活用して自動灌水設備等による省力化を図る。
- ③ トマト黄化葉巻病の耐病性品種の導入、防虫網や粘着板の利用を推進することにより、生産の安定を図る。
- ④ 物理的防除、生物農薬等の利用により、化学農薬散布回数の削減に努力することで、安全・安心な農作物の生産を推進する。

生産出荷近代化計画の概要

- 〔 野菜指定産地 〕 志太
- 〔 指定野菜の種別 〕 冬春トマト
- 〔 区 域 〕 島田市、焼津市、藤枝市
- 〔 指定年月日 〕 昭和44年8月18日
- 〔 計画樹立年月日 〕 平成28年1月20日
- 〔 変更後の概要 〕

【産地の概要】

平成25年現在、作付面積15ha、生産数量771t(5,140kg/10a)である。作付面積と生産数量は減少、10aあたり生産数量は横ばいの状況にある。農協、経済連を通じて関東市場を中心に生食用として出荷している。

【現状と課題】

当区域では、促成トマト、抑制トマトと半促成トマト、抑制トマトときゅうりやメロン、半促成栽培とセルリーなどの組み合わせによる作型が定着している。高齢化や都市化の影響、高糖度トマトへの作型変更で年々減少している。

【今後の対応策】

現状の生産規模を維持拡大するため以下の点について重点的に取り組み、担い手の確保、効率的な生産出荷体制の整備を図る。

- ① 養液栽培システムの導入による省力化を進め、規模拡大を推進する。
- ② 既存の集出荷施設を活用し、選果ラインの近代化を進めて出荷物の品質向上と流通の合理化を図る。
- ③ 物理的防除、生物農薬等を導入し、化学農薬散布回数の削減に努力することで、安全・安心な農産物の生産を推進する。

生産出荷近代化計画の概要

- 〔野菜指定産地〕 志太榛原
- 〔指定野菜の種別〕 冬レタス
- 〔区 域〕 島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町
- 〔指定年月日〕 昭和44年8月6日
- 〔計画樹立年月日〕 平成28年1月20日
- 〔変更後の概要〕

【産地の概要】

平成25年現在、作付面積は392ha、生産数量は9,935t（10a当り2,534kg）である。作付面積と生産数量は減少傾向にあり、10a当りの収量は微増している。農協、経済連等を通じて関東、東海、北陸市場に出荷している。

【現状と課題】

当区域では、水田の裏作としてレタスの作付けが始まり、現在ではレタス+水稻の組み合わせによる作型が定着している。生産者数の減少が見込まれるが担い手の規模拡大等により生産面積を維持拡大していく。

【今後の対応策】

現状の生産規模を維持拡大するため以下の点について重点的に取組み、担い手の確保、効率的な生産出荷体制の整備を図る。

- ① 育苗から出荷調整まで、一連の作業の機械化を推進して省力化を図る。
- ② 農地の流動化と集積によって規模拡大を図り、法人経営など体質の強い経営体を育成する。
- ③ 物理的防除、生物農薬等を導入し、化学農薬の散布回数削減に努力するとともに、堆肥等有機質資材の投入を図ることで、環境に配慮した安全・安心な農産物の生産を推進する。
- ④ 定植から出荷・調整作業までの機械化体系の構築を図り、労働時間の短縮を図って作業を合理化する。

生産出荷近代化計画の概要

- 〔野菜指定産地〕 榛南
- 〔指定野菜の種別〕 秋冬だいこん
- 〔区 域〕 御前崎市(旧御前崎町)、牧之原市、吉田町
- 〔指定年月日〕 昭和43年10月15日
- 〔計画樹立年月日〕 平成28年1月20日
- 〔変更後の概要〕

【産地の概要】

平成25年現在、作付面積76ha、生産数量2,898tであり、近年作付面積、生産数量とも減少傾向である。農協、経済連等を通じて関東、東海市場に出荷している。

【現状と課題】

近年、圃場環境が整い、作柄が安定し出荷体制も整っているが、市場価格が安定していないため、後継者は少ない。今後、温暖化の影響等で不作等が懸念されるため、生産者の減少に拍車がかかる恐れがある。

【今後の対応策】

現状の生産規模を維持拡大するため以下の点について重点的に取組み、担い手の確保、効率的な生産出荷体制の整備を図る。

- ① 播種についてはシーダーマシンによる省力化、間引きについては発芽率の良い品種で播種粒数を減ずることで省力化を進める。
- ② 出荷規格の見直しを検討し、出荷調整労力の軽減を図る。
- ③ 飛砂防止、病害虫対策について生産指導を行いながら改善を進める。
- ④ 品質の高位平準化と、出荷を計画的かつ円滑にして、共販意識を高めるとともに、集出荷体制の合理化を推進する。
- ⑤ 堆肥等有機質資材と流亡の少ない緩効性肥料の選定を行い、当区域に適した資材の導入推進をしていく。

生産出荷近代化計画の概要

- 〔野菜指定産地〕 磐田
〔指定野菜の種別〕 秋冬さといも
〔区 域〕 磐田市
〔指定年月日〕 昭和46年6月30日
〔計画樹立年月日〕 平成28年1月20日
〔変更後の概要〕

【産地の概要】

平成25年現在、作付面積46ha、生産数量639t（10a当たり1,389kg）である。農協、経済連等を通じて関東、近畿市場に出荷している。

【現状と課題】

当産地でのさといも生産の歴史は古く、昭和2年に栽培が始まりその後産地化された。しかし近年は、高齢化等により、産地全体の生産者数、栽培面積は減少傾向である。

【今後の対応策】

現状の生産規模を維持拡大するため以下の点について重点的に取り組み、担い手の確保、効率的な生産出荷体制の整備を図る。

- ① 現状の栽培者の面積維持に努めるとともに、講習会を開催し技術の平準化を図る。
- ② 新たな栽培者を確保し、栽培技術・経営等のフォローアップを行う。
- ③ 集出荷施設の利用と機械化による作業の効率化を図る。

生産出荷近代化計画の概要

- 〔 野菜指定産地 〕 磐田
- 〔 指定野菜の種別 〕 秋冬ねぎ
- 〔 区 域 〕 磐田市、袋井市
- 〔 指定年月日 〕 昭和42年8月19日
- 〔 計画樹立年月日 〕 平成28年1月20日
- 〔 変更後の概要 〕

【産地の概要】

平成26年現在、作付面積116ha、生産数量2,322t（10a当たり2,002kg）であり、農協、経済連等を通じて関東、近畿、東海市場に出荷している。指定野菜である秋冬ねぎ、さといもの他には、メロン、トマトなどが多く、県内の野菜主要産地である

【現状と課題】

明治6年頃生産が始まり、天竜川洪積の砂壤土地帯を中心とし、冬季の換金作物として栽培が拡大した。その後、産地間競争に対抗するため、品種選抜試験を実施し優良品種の導入を図っている。しかし、管内の市街化に伴い農地の宅地化が進んだことと、生産者の高齢化による栽培面積の縮小で、生産量が減少している。

【今後の対応策】

現状の生産規模を維持拡大するため以下の点について重点的に取組み、担い手の確保、効率的な生産出荷体制の整備を図る。

- ① 農地中間管理事業などを活用し、規模拡大意向農家の作付面積の拡大を支援することで、面積維持を図る。
- ② 排水対策等により土壌病害を防ぐことにより生産数量を向上させる。

生産出荷近代化計画の概要

- 〔野菜指定産地〕 小笠
- 〔指定野菜の種別〕 冬春トマト
- 〔区 域〕 掛川市、御前崎市(旧浜岡町)、菊川市
- 〔指定年月日〕 昭和58年12月20日
- 〔計画樹立年月日〕 平成28年1月20日
- 〔変更後の概要〕

【産地の概要】

平成25年現在、作付面積35ha、生産数量3,018t（10a当たり8,620kg）であり、農協、経済連等を通じて関東、東海市場に出荷している。

遠州灘に面した海岸砂地地帯である当地は、いちご・トマト・メロン等の施設園芸に加えにんじん、さといも等の露地野菜栽培も盛んである。

【現状と課題】

単位数は増加の状況であるが、担い手の高齢化が進み作付面積と生産数量は減少している。

【今後の対応策】

現状の生産規模を維持拡大するため以下の点について重点的に取組み、担い手の確保、効率的な生産出荷体制の整備を図る。

- ① 長期採りなどの新たな技術も定着させ作付面積、生産数量の拡大を図る。
- ② 生産力確保のため重要なトマト黄化葉巻病の総合防除対策を徹底し、生産の安定を図る。
- ③ 機械選果、非破壊内部品質検査、トレーサビリティ機能を持つ集出荷施設を活用し、効率的な流通体系の確立を図る。

生産出荷近代化計画の概要

- 〔野菜指定産地〕 小笠
- 〔指定野菜の種別〕 冬レタス
- 〔区 域〕 掛川市、御前崎市（旧浜岡町）、菊川市
- 〔指定年月日〕 昭和44年8月6日
- 〔計画樹立年月日〕 平成28年1月20日
- 〔変更後の概要〕

【産地の概要】

平成25年現在、作付面積70ha、生産数量1,976tであり、農協、経済連等を通じて関東市場に出荷している。

いちご・トマト・メロン等の施設園芸が盛んで、加えて露地野菜についても北部から中部に広がる水田でのレタス栽培や遠州灘に面した海岸砂地地帯でのにんじん、さといも等の栽培が盛んである。

【現状と課題】

家族経営が中心で高齢化が進んでおり、作付面積と生産数量は減少傾向にある。

【今後の対応策】

現状の生産規模を維持拡大するため以下の点について重点的に取り組み、担い手の確保、効率的な生産出荷体制の整備を図る。

- ① 気象変動に対応した品種の導入等の生産体系や、難防除病害虫の総合防除対策の確立により、生産性の向上を図る。
- ② 作業受託等による省力化や中古資材の有効活用等による低コスト化により、担い手の経営規模拡大と安定を図る。
- ③ 展示ほの設置や移動前に作業機械の洗浄を徹底するなど地域全体で病害虫防対策に取り組む。
- ④ 耕種的防除を導入して健全な育苗を行い、化学農薬散布回数の削減に務める。

生産出荷近代化計画の概要

- 〔 野菜指定産地 〕 大城
- 〔 指定野菜の種別 〕 春夏にんじん
- 〔 区 域 〕 掛川市
- 〔 指定年月日 〕 昭和 62 年 9 月 28 日
- 〔 計画樹立年月日 〕 平成 28 年 1 月 20 日
- 〔 変更後の概要 〕

【産地の概要】

平成 25 年現在、作付面積 28ha、生産数量 933 t であり、農協、経済連等を通じて関東市場に出荷している。

主要な栽培地域である旧大東町地区では、温暖な気候を利用した施設野菜の栽培も盛んであるが、露地専作農家によるにんじんとさといも、スイカ、さつまいもの輪作が行われている。

【現状と課題】

品質的に高い市場評価を得ているが、近年の価格の低迷や担い手の高齢化等により生産量は減少傾向にある。また、栽培から出荷までの一貫した省力化のため、農地集積や作業受委託等による機械の効率的な利用の推進が課題となっている。

【今後の対応策】

現状の生産規模を維持拡大するため以下の点について重点的に取り組み、担い手の確保、効率的な生産出荷体制の整備を図る。

- ① 担い手への農地集積の促進や作型拡大等により面積拡大を図る。
- ② 農業近代化資金等を活用して収穫機等による作業の省力化を図る。
- ③ 「ハニーキャロット」ブランドの販促、PR や出荷期間拡大等によりブランド力の強化を図る。
- ④ 土づくり・効率的施肥・化学農薬散布回数削減を一体的に行うエコファーマーによる持続性の高い農業生産方式の確立を図る。

生産出荷近代化計画の概要

- 〔 野菜指定産地 〕 西遠
- 〔 指定野菜の種別 〕 たまねぎ
- 〔 区 域 〕 浜松市、湖西市
- 〔 指定年月日 〕 昭和41年8月18日
- 〔 計画樹立年月日 〕 平成28年1月20日
- 〔 変更後の概要 〕

【産地の概要】

平成25年度現在、作付面積227ha、生産数量10,100t（10a当たり4,449kg）であり、農協、経済連等を通じて関東、東海、近畿市場に出荷している。

施設園芸が中心の静岡県農業の中にあって、当地区のタマネギは早生タマネギとして全国でも有名な産地として知られており、露地野菜の中では収益性も高く、有利販売されている作物である。

【現状と課題】

元々、住宅地に隣接しているため、宅地化による農地の減少と生産者の高齢化により生産量は減少傾向にあり、この傾向は今後も続くものと考えられる。

【今後の対応策】

現状の生産規模を維持拡大するため以下の点について重点的に取り組み、担い手の確保、効率的な生産出荷体制の整備を図る。

- ① 利用権設定等の促進により面積維持を図るとともに大規模農家や若手農家への集積を進める。
- ② 生産性の向上を図るため、農業近代化資金等を活用して定植機導入による省力化を図り、規模拡大を行う。
- ③ 土壌伝染病害虫対策としては、土壌消毒を中心とした防除体系とし、生産の安定を図る。
- ④ 集荷場が点在しているため数箇所程度に集約化を進め、規格・品質の統一に努める。

生産出荷近代化計画の概要

- 〔野菜指定産地〕 西遠
- 〔指定野菜の種別〕 冬レタス
- 〔区 域〕 浜松市
- 〔指定年月日〕 昭和58年12月20日
- 〔計画樹立年月日〕 平成28年1月20日
- 〔変更後の概要〕

【産地の概要】

平成25年現在、作付面積54ha、生産数量1,110tであり、関東、東海、近畿市場に出荷している。

施設園芸が中心の静岡県農業の中にあつて、レタスは「はままつ洋菜」の一品目として銘柄化されており、露地野菜の中では収益性も高く、有利販売されている作物である。

【現状と課題】

元々、住宅地に隣接しているため、宅地化による農地の減少と担い手の高齢化により、生産量は減少傾向であり、この傾向は今後も続くものと考えられる。

【今後の対応策】

現状の生産規模を維持拡大するため以下の点について重点的に取組み、担い手の確保、効率的な生産出荷体制の整備を図る。

- ① 利用権設定等の促進により面積維持を図る。
- ② 農業近代化資金等を活用して定植機等の導入による省力化を図り、規模拡大を行う。
- ③ 生分解性マルチの利用や緩効性肥料による施肥量削減を推進し、環境に配慮した生産技術を確立する。
- ④ 出荷容器の改善により資源保護と流通コストの削減を図る。

生産出荷近代化計画の概要

- 〔野菜指定産地〕 三方原
- 〔指定野菜の種別〕 ばれいしょ
- 〔区 域〕 浜松市、湖西市
- 〔指定年月日〕 昭和56年1月23日
- 〔計画樹立年月日〕 平成28年1月20日
- 〔変更後の概要〕

【産地の概要】

平成25年現在、作付面積367ha、生産数量9,529t（10a当たり2,596kg）であり、関東、東海、近畿市場に出荷している。

三方原ばれいしょは全国的な産地として銘柄化されており、露地野菜の中では収益性も高く、有利販売されている作物である。

【現状と課題】

住宅地に隣接しているため宅地化による農地の減少と、生産者の高齢化により生産量は減少傾向であり、この傾向は今後も続くものと考えられる。

【今後の対応策】

現状の生産規模を維持拡大するため以下の点について重点的に取組み、担い手の確保、効率的な生産出荷体制の整備を図る。

- ① 利用権設定等の促進により面積維持を図るとともに大規模農家や新規就農者の作付けを推進する。
- ② 農業近代化資金等を活用して機械化による省力化を図り、規模拡大を行う。
- ③ 土壌伝染病害虫対策としては、土壌消毒を中心とした防除の推進により、生産の安定を図る。
- ④ 選果場の利用を推進し、均質化を図る。